菊岡保人の水彩画
～細部に思いをこめて～

Size：530×455㎜（F10）

「陽だまり」

梅の花を詠んだ句に江戸時代前・中期の俳人・服部嵐雪の『梅一輪一輪ほどの暖かさ』があります。句の受取り方はさまざまとしても、梅の花は人々の気持ちを冬から春へといざなってくれます。

この絵は、２月下旬の東京都世田谷区立羽根木公園の一風景です。公園は約８ha、およそ60種類、650本の梅がある都内有数の梅の名所となっています。ここが梅公園となったのは1967年、区議会議員選出記念として梅55本が植樹されたのが始まりです。なぜ梅かと言うと、植樹の３年前に区の中に町名・梅丘が新設されたことに関係しているようです。梅丘という地名は電車の駅名が梅ヶ丘であったことや近くの古墳の名前が「埋めが丘（梅ヶ丘）」であったことなどに因むと考えられています。

余談になりますが、「梅」を含む地名は全国でおよそ400余り、そのうち梅田が約100、梅ノ木、梅ヶ丘、梅園などが各10余でした。「梅田」は先人たちが造り上げた「埋め田」を表すことが多いと言われます。梅を見て先人の土地改良に思いを馳せるのは無粋でしょうか。

この絵の制作で手間取ったのは水彩画特有の課題である混色を避ける作業です。遠景から順に手前へと着色しますが事前に残したい手前の花や枝にマスキングする作業です。その成果が表れていれば嬉しいのですが。

菊岡　保人